

## 7. 頸動脈超音波検査による動脈硬化危険因子の評価

越谷病院臨床検査部

内山健二、柴崎光衛、メ谷直人、森三樹雄

目的：動脈硬化を起こす危険因子とされている糖尿病(DM)および高脂血症、高血圧症、加齢と頸動脈超音波検査との関係について調査を行った。

対象・方法：入院・外来患者 280 例ならびに当院臨床検査部職員 69 名の健常者を対象として、比較検討を行った。

結果：健常群と患者群において脂質 4 項目と左右 IMT 値は全ての項目で有意な差を認められた。

動脈硬化危険因子別の IMT 平均値は、高脂血症群、DM・高血圧単独群で 0.9mm 以上の高値であった。因子が重複している群は IMT 1mm 前後の高値を示した。

動脈硬化危険因子を持つ患者には血液検査の他にスクリーニング検査として頸動脈超音波検査を行うことで見落としの少ない検査が出来るものと考えられる。

## 8. AMIにおける体外式counterpulsationの血行動態的効果と神経体液性因子の変化

内科学(心・血管・肺)

田口 功, 大井田史継, 阿部七郎, 小川研一, 金子 昇

目的：体外式カウンターパルセーションの血行動態とその機序を神経体液性因子により検討した。

対象・方法：急性心筋梗塞24例を対象とし、EECPの施行前, 中, 後の心拍数, 右房圧, 肺動脈楔入圧, 心係数を測定。また, 各時点における神経体液性因子を測定した。

結果：心拍数は有意変化認めず, 右房圧, 肺動脈楔入圧, 心係数は有意に増加した。神経体液性因子は, ANPにおいてのみ有意な増加を認められたが, BNP他では有意な変化を認めなかった。EECPは静脈環流の増加による前負荷増大により心係数を増加させる。その際, 血中ANP濃度は増加するが, 血中BNP, renin, aldosterone, catecholamine濃度は変化を認めなかった。